

## 教師のための法律学

本学教員著書

教員免許を取得するためには「日本国憲法」を履修しなければなりません。本学の科目は「法と生活」が該当します。本書は、簡潔に憲法の理念を学習するにはどうしたらよいか、特に将来教師をめざす学生にとって必要な基本的人権について理解と学校教育との関わりに絞り論述してみました。大きな問題となっているいじめ事件と学校・教師・家庭の法的責任についても言及しています。(法学・入澤充)



◎教師のための法律学 (入澤充、道和書院、2006年)

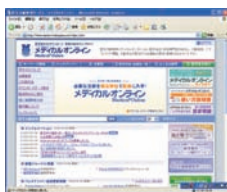
### Information

#### インターネット・データベース情報

日本ではまだ馴染みがありませんが、欧米では学術雑誌を「電子ジャーナル」で読むのは、もはや一般的です。「電子ジャーナル」とは簡単に言えば、「紙」ではなく、「インターネット」で論文を読むことです。インターネットでの学術論文の公開は、早く広く見る事ができ、様々なメリットがあります。日本でも既に大学の紀要・学会誌も国立情報学研究所等がかなり電子化されており、一部分は誰でも無料で閲覧できます。本学でも今年8月から以下の2つのデータベースと契約しました。詳しい利用方法は、カウンターまで。(図書館・神月博)

①メディカル・オンライン (メテオ) <http://www.meteo-intergate.com/>

国内の学会・出版社発行の雑誌に掲載された医学、歯学、薬学、看護学、医療技術、栄養学、衛生・保健などのあらゆる医学関連分野の「医学文献」から検索でき、必要な文献は全文閲覧・ダウンロードが可能。基本的に刊行後、2-3週間でアップ。学協会誌は、全文を即時PDFで、商業誌は、一定期間経過後(出版社により異なる)、PDFで見ることができます。



② CiNii [サイニイ] (国立情報学研究所) <http://ci.nii.ac.jp/>

学協会誌・大学研究紀要・国立国会図書館の学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービス。学協会が発行された学術雑誌と大学等で発行された研究紀要の両方を検索することができる。また検索された論文の引用文献情報(どのような論文を引用しているか、また、どのような論文から引用されているか)をたどったり、本文を参照したりすることができる。



### 新図書館長より

#### 愛される図書館を目指します!

私の学生時代の楽しみといえば、一に読書、二に名画座の映画、三にラジオの深夜放送だったように思います。読書は学生にとって世界を知り、好奇心を満たしてくれる重要な存在でした。

今や情報はあらゆる手段で得られ、学生のライフスタイルもすっかり変わりました。時代の流れをつくづく感じますが変わらぬ本質も当然あると思います。



古代ギリシャ、ローマ時代には記録、保存、収集、そして利用という公開図書館が誕生したといわれています。印刷技術もない写本が主だった時代から、図書館の誕生は必然でした。人間の英知を感じます。



写真=ローマ時代、三大図書館の一つといわれたセルシウス図書館の遺跡(トルコ)

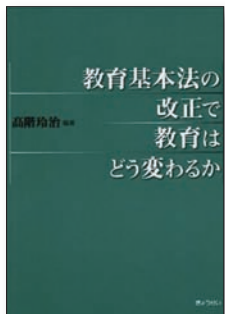
さて、本学の新図書館も開館から4年目を迎え、利用者も飛躍的に増えました。図書館の機能も日々進歩しています。研究、勉学、あるいはちょっとした息抜き場として、ますます愛される図書館になりますよう努力して参りたいと思っています。(図書館長・宿輪忍生)



### 新刊図書紹介

#### ◎教育基本法の改正で教育はどう変わるか

昨年12月に新しい教育基本法が公布・施行されました。これまでは教育基本法は理念法として、やや抽象的な受け止めがなされてきましたが、今回の改正内容をみると教育の実際に結びつく条項が多くみられます。教育基本法は、わが国の教育がどのような日本人を育成するためのものかという基本を定めた法律です。なぜ改正されたのかを理解し、広い視野に立って教育を見つめ、考えることが重要です。本書は改正のポイントと教育改革の動向をわかりやすく整理し、新時代の学校、家庭教育、社会教育、教育行政のゆくえを展望し、提供しようとするものです。なお、図書館は、教職を志す方々の参考として教職課程、教員養成セミナー等の雑誌を購入しています。地下書庫に過去5年分の冊子も保存していますので是非ご利用ください。



◎教育基本法の改正で教育はどう変わるか (高階玲治、ぎょうせい、2007年)

(図書館事務長・岡村洋一)

編集・発行：東京女子体育大学・短期大学 図書館委員会  
東京都国立市富士見台 4-30-1 TEL.042-572-4131

#### 鉄棒 村野四郎

僕は地平線に飛びつく  
僕に指さきが引つかかつた  
僕は世界にぶら下つた  
筋肉だけが僕の頼みだ  
僕は赤くなる 僕は収縮する  
足が上つてゆく  
おお 僕は何処へ行く  
大きく世界が一回転して  
僕が上になる  
高くからの俯瞰  
ああ 両肩に柔軟な雲



撮影・渡邊 洋



## 話題の映画・テレビを読む

皆さんは、東京タワーに登ったことがありますか。昭和33年に建設されたこのタワーは、有名な観光スポットでもあり、日本の高度経済成長のシンボルでもあります。この春、「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」という映画が公開されました。テレビドラマにもなったのでご覧になった方も多いでしょう。

### 「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」に見る家族の姿



◎映画版より

この映画に出てくるオカンは優しい人です。それと対照的に、題名のとおり時々登場するオトンは、とても型破りで周囲に迷惑ばかりかけています。息子の「ボク」も情けないほどだらしがない。でもオカンはこの二人に無償の愛を注ぎます。本当はオトンも悪い人ではないのです。バランスが悪くて、気が弱くて、家族との付き合い方が分からない人なのです。「ボク」もオカンの期待を

裏切ってばかりいますが、オカンの愛は痛いほど感じています。だからオカンは、オトンも「ボク」も好きなのです。立場は違って、三人は互いにかけてあげない存在になっています。これが結局、「家族」というものなのでしょうね。

若いころのオトンの写真には、背景に建設中の東京タワーがあります。「ボク」はいつかそこに連れて行くと約束しますが、ついにオカンを連れて行くことはできません。東京タワーはオカンとの果たされない約束の象徴なのですが、きっと果たされなかった約束は他にもたくさんあったことでしょう。こういう人生の末に、オカンは胃ガンで亡くなります。でもこの映画は「死んでしまうかわいそうなオカンの物語」ではなく「はつらつと生きたオカンの物語」になっています。きっとオカンは自分の人生に満足していたことでしょう。

この映画を見ると、あらためて自分と親との関係や、家族の愛情というものについて考えてみたくなります。原作はイラストレーターで作家でもあるリリー・フランキーの小説で、220万部を売り上げたベストセラーです。ちょっと長いのですが、一気に読めてしまう作品です。秋の夜長、家族について考えながら読んでみてはいかがでしょう。(国語・田中洋一)



◎TVドラマ版より



◎東京タワー〜オカンとボクと、時々、オトン〜 (リリー・フランキー、扶桑社、2005年)



◎ダブルハッピーネス (杉山文野、講談社、2006年)

最近よく耳にする「性同一性障害」。この本は、2004年度女子フェンシング日本代表の早大生で、性同一性障害である著者が、自分の生い立ちをリアルかつさわやかに書きつづったものだ。性<sup>レズ</sup>と生<sup>ゲイ</sup>に向き合う思わずくすりと思ってしまう場面や、フレーズに考えこんでしまう場面もあり…、読んでいて様々な刺激を受けた。言葉はよく聞くようになったが、よくわからない…と思っている人がたくさんいるはず。是非読んでほしい一冊。(学部3年・関真弓)

## 本の記憶

私の読書歴ということで記憶をたどってみると、自分の専門に関する書物以外はほとんど本らしい本を読んでいない。そのようななかで特に感銘を得た本を一冊あげるとすれば、それは吉川英治「宮本武蔵」である。

### 「武蔵」との出会い

高校時代にクラブ活動の恩師から勧められたのであるが、当時自分はいくつかの悩みを抱え体操の道を外れていた。少なくとも師からはそう見えたのであろう。

一気に読んだ。読み終えてある種の爽快感と充実感に満たされたことを覚えている。



◎宮本武蔵 (吉川英治 歴史時代文庫) 第一巻

この「武蔵」は新聞に連載された大衆小説であるが、剣を通じて人間としての理想像を追求する武蔵の姿に、読む人によっては哲学的内容を見ていく。私も何回も読み返しているが、読む年代ごとに承ける感懐が異なり、新しい発見をする。“わざ”を極めようとする者の心の持ち方や美意識など、競技の世界の伝承に興味をもつ私にとって多くの示唆を与えてくれる。数少ない愛読書のひとつである。(学長・塩野克己)

## 本はあなたに開かれるのを待っています



◎心に木を育てよう (穂本正、PHP研究所、2007年)

この夏は驚くほど暑かったですね。「温暖化」が加速している危機を実感した人は多いと思います。本書の著者の稲本氏は、「食育」と共に「木育」(木を植え、育て、大切に使う)を実践され、長年環境問題に取り組んでこられました。1970年代に飛騨高山に作ったアトヴィレッジは、草だけの荒地だったようですが、今では緑の木々がいつぱいの森に育っています。この本では、美しい空気・水・緑にあふれる地球を子供たちの未来に残すための、数々の具体策が提示されています。一読して、環境に「役買えるヒント」を探してみることをお勧めします。(音楽・三好優美子)

Save the BLUE

## 名作をあなたに

### 罪と罰

ドストエフスキー

今回から、学生の教養としての読書の視点で、名作を紹介していきます。毎日少しずつでも読み進めて、自分の思索の世界を広げていってください。

この作品は、19世紀を代表するロシアの小説家、ドストエフスキーによって書かれました。我が国では、明治25年に最初の翻訳が出ていますから、ほぼ同時代の文学として紹介され、愛読されてきました。

主人公はラスコーリニコフという孤独と貧窮の中に生きる大学生です。彼が金貸しの老婆を殺害するという行為をめぐる思索と悔恨、懊惱を中心に作品は展開していきますが、その過程で、人生の意味や宗教による救済、愛と献身など、簡単には結論の出せない問題について、様々な思索を読者に強いる作品となっています。学生時代にぜひ一度読んでみてください。(各種文庫に所収) (教育課程・加藤明)

## あなたは「辞典」で楽しめますか？

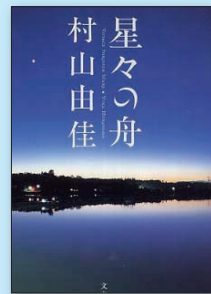
20年近くも前に発行された「講談社カラー版 日本語大辞典」は、いかにもヴィジュアルな時代を反映して、贅沢とも思えるほどの豊富なカラー写真で彩られています。私は学生の感想文やレポートを読むときなど、必ずこの辞書を座右において気になる言葉をチェックしていますが、つい同じ頁の別の言葉や写真に目移りしてしまうほど、辞書にしては楽しい書面になっています。だいふ擦り切れたこの大きな辞典は、私の大切な書のひとつです。(音楽・菊本哲也)



◎講談社カラー版 日本語大辞典 第二版 (1995年)

## 愛とは、家族とはなにか

私はいろいろなジャンルの本を読みますが、その中でも一番好きな本は村上由佳の作品です。今年に入り村上由佳の作品をすべて読みました。村上由佳といえば映画「天使の卵」の著者として有名です。恋愛ものが多いのですが、とても読みやすく若い私にとって重なる部分が多く、まるで自分自身の物語を読んでいるかのような気持ちにもなりました。特に私がおすすめする作品は、「星々の舟」です。禁断の恋に悩む兄妹、他人の恋人ばかり好きになる末っ子、居場所を探す団塊世代の長兄、そして父は戦争の傷を抱いて…愛とは、家族とはなにか。そんな、こころふるえる感動の物語です。(児教2年・並木綾)



◎文春文庫「星々の舟」(村上由佳、文藝春秋、2006年)